

新 生

平成二十四年六月十日印刷
平成二十四年六月二十日発行

新生第六十四巻第二号

巣立ちする親子に風がほほえまし

小富士



東北新生園入所者自治会

新 生

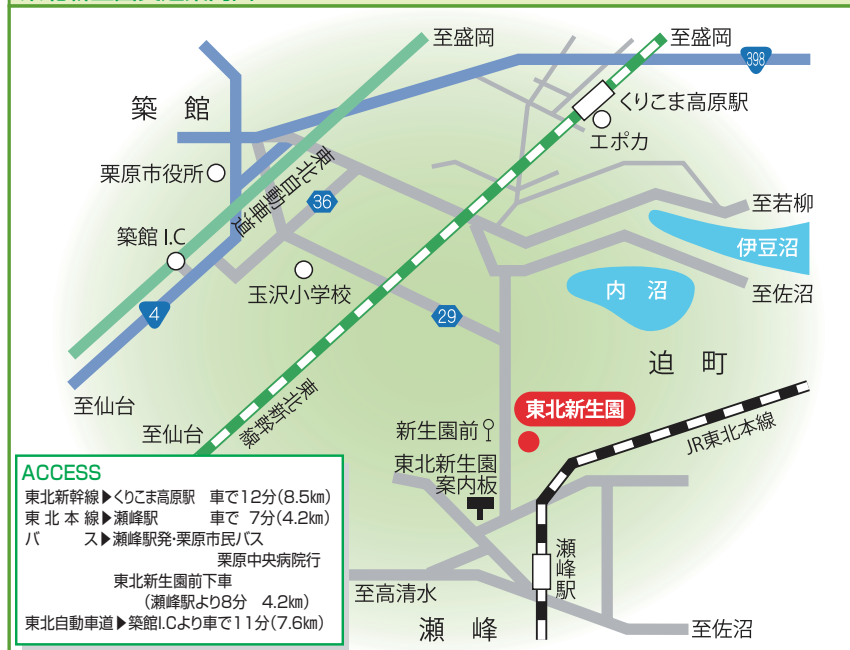
平成二十四年六月十日印刷
平成二十四年六月二十日発行

第六十四巻第二号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	266床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男50名 女58名 計108名
職員定員数	152名（平成24年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



栄養サポート稼働施設認定

平成23年から有志の方々のご協力と園長先生をはじめとする、管理部門のご理解と援助を頂いた結果、当園は全国の国立ハンセン病療養所でも初めてと思われる、日本静脈経腸栄養学会の第8回栄養サポートチーム（NST）稼働認定施設として認められました（平成24年3月）。これからも入所者の皆様の健康を維持できるように、様々な職種の職員が協同してチーム医療・チーム介護のお手伝いをしていく所存です。

内科医長 北山 卓



園内日誌

平成二十四年 一月～三月

【謝寄贈図書欄】

平成二十四年 一月～三月（敬称略）

四日 御用始式
四日 正月行事（抽選会）
十日 新年賀詞交歓会
十一日 新年寮長連絡会

《一月》

一日 三重県慰問
二十九日 桜記念植樹祭
三十日 退職者離園式

《二月》

多磨	駿河	高野	菊池	愛生	点字愛生	青森	甲田の裾	始良野
東京都	静岡県	群馬県	熊本県	岡山県	岡山県	香川県	青森県	鹿児島県
多磨	駿河	栗生	菊池	長島	長島愛生園盲人会	大島	松丘	星塚
全生	光明	療養所	恵楓園	愛生園	盲人会	青松園	養育園	愛園

平成24年6月10日 印刷
平成24年6月20日 発行

東北新生園楓会(自治会)
楓会文化
川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十四卷第二号……………目次

表紙……「巣立ち（丹頂）」……………桃生 小富士

皆様、よろしくお願ひします……………総看護師長…宮里 節子…（2）
着任のご挨拶……………事務長補佐…齋 藤 浩…（4）

……………庶務班長…中 嶋 勝 信…（6）
……………診療放射線技師長…藤 田 司…（8）

与えるところ……………臨床検査技師長…清水 益 男…（10）
東北新生園に赴任して……………栄養班長…瀧 澤 豊…（12）

随筆「父と子の会話」……………今 野 きよし…（13）

|| 新 生 文 芸 ||

詩……………選 者…佐々木 洋 一…（16）

短 歌……………選 者…長 田 雅 道…（17）

俳 句……………選 者…山 田 桃 晃…（18）

川 柳……………選 者…栗 石 隆 子…（20）

随筆「母と息子の会話」……………今 野 きよし…（23）
東日本大震災後の医薬品供給と今後の対応について

……………薬剤師…太 田 貴 洋…（26）
お世話になりました……………元看護師…小野寺 静 男…（32）

園内日誌・謝寄贈図書

皆様、よろしくお願ひします

総看護師長 宮 里 節 子

皆様、はじめまして。四月一日付けで東北新生園勤務となりました宮里節子です。原稿を依頼され、それも4枚以上、「ひえー、何をどう書きゃいいんじや」「格調高いものなんて書けない」もんもんと悩みましたが、まずは自己紹介をしようと思います。格調は低いです、ご了承ください。

私の出身地は、山形県酒田市です。酒田は西廻り航路の寄港地として栄えた港町で、テレビドラマの「おしん」で一躍有名になりました。酒田には高等学校卒業まで住んでおり、朝な夕なに鳥海山を仰ぎ、日本海に沈む夕日を眺めながら下校したものです。そんな私が看護師になろうと入ったのが、石川県にある

山中病院の付属看護学校でした。家から離れてみたい、でも都会はいやだな、というのが選んだ理由です。卒業してからかなりたちますが、昨年の大震災時には当時のクラスメイトが心配して電話や手紙をくれました。同じ釜の飯を食べた友は有難いと感謝しています。卒業後は、少しでも老親の近くがよからうと就職した先が国立仙台病院でした。新人で配属されたところが、耳鼻科・眼科・皮膚科・形成外科の混合病棟で、その後脳外科病棟や救急センターへ配属されました。どこも忙しい病棟でしたが、休みの日には同僚と飲みにいったり遊んだり、今思うとあの時はタフだった、との一言に尽きると思います。看護師長に昇任して西多賀病院へ。仙台にいながら、同じ仙台市にある西多賀病院の場所も、その時まで知りませんでした。西多賀病院は、東日本の筋ジスのメッカとも言われ、整形外科も上位頸椎の手術をバンバンしている凄いなのでした。そんなことも知らず、おのぼ

りさんよろしくのこと行つたものですから、一つひとつ勉強しながらの病棟運営でした。整形外科・神経内科と経験しましたが、先輩師長や部下に助けられ、部下って有難いなあと感じたものです。その後仙台医療センターへ転勤になりましたが、七年の間に別の病院になっていました。時間の流れが三倍に なっている感じがした。仙台には二年間でしたが、その後、いわき病院、福島病院と流浪を続けました。いわき病院は海のすぐ近くにあり、地震では津波の被害がありました。あそこには水が来た、どこそこは流れて土台しかない、自家発電が止まって患者さんが散り散りに別の病院へ運ばれていった、と聞き思ひ出すたびに今でも心が切なくなります。いわきは私にとって自宅から通えない初めての赴任地であったため、総看護師長室から見える海が心の癒しでもありました。病院機能は元に戻っていることですが、津波から患者さんを守り抜いたスタッフに頭がさがる思い

です。前任地の福島病院は津波こそ来ませんでした、原発から約六十キロメートルで、風評被害の対象にしたいほどです。周産期、つまりお母さんや赤ちゃんの看護が充実していたところですが、福島県から妊婦や子供が避難して、患者さんが少なくなつたのです。現在は戻りつつありますが、それでも以前のようではありません。福島病院でも、心の癒しがありました。敷地内にいくつか池があるのですが、冬になると鴨が渡ってくるのです。その鴨にパンで餌付けをし、鳥インフルエンザが騒がれた時には、ばれないようにコロコロとやっていました（結局ばれていました）。観察していると、鴨にも気の弱いもの、仲間をいじめるもの等個性があり、そのたびに「こらあ！仲良くしろー！」と鴨に指導をしていたものです。敷地内にある竹藪でたけのこを掘ったり、干し柿作りをしたり、仕事以外でも自然を満喫した病院でした。今回の転勤で、東北新生園は六カ所目の施

着任のご挨拶

事務長補佐 齋藤 浩

平成二十四年四月一日付けで、国立療養所東北新生園で勤務することになりました齋藤と申します。よろしくお願いいたします。

東北新生園での勤務は八回目の転勤となります。三月三十日に引継、引越しのため初めて東北新生園を訪れましたが、東北自動車道築館インターから十分程度と近く、途中の道すがら、子供の頃住んでいた原風景を彷彿させる景色が拡がり、懐かしい思いに駆られました。

緑の中を車で走ると、何故か、ゆったりした気持ちになるのは、誠に心地よいものです。四月二日に辞令交付を受け、早速勤務し始

設になります。最初に驚いたのが敷地の広さです。福島病院も広いと思いましたが、その比ではありません。池には鴨どころか白鳥まで飛来するというので、寒いのは苦手ですが、白鳥に会えるかと思うと、今から楽しみです。今までは国立病院機構の病院勤務で、ハンセン施設は初めてです。今回、ハンセン施設に行くからには歴史を勉強せねば、と本やインターネットで学習しました。しかし、入所者の皆様から話を聞くにつけ、どのような思いで長い月日を過ごしてこられたのだろうか、こんな私でも支えになることができるのだろうか、と自問自答しながら一ヶ月を過ごしてきました。できる限り、入所者の皆様の訪問し、色々と教えていただいて成長していきたいと思います。また、皆様が安心して心地よいケアを受けることができるように、環境を整えていきたいと思います。猫バカのふつつか者ですが、どうぞよろしく願います。

めましたが、早く施設の中を知りたいと思い、各職場へ直接訪問するよう心掛けておりますが、思いのほか動線が長く、これまでより歩く距離が増え、日頃いかに歩いていなかったか思い知らされます。

途中、歩いていると、入所者の方々にお会いしますが、皆様が優しく挨拶を返して下さり、暖かな気持ちに包まれているようで心地良さを感じさせていたいております。

また、職員の皆様も優しく接して下さり、誠に感謝に堪えません。

東北新生園に勤務する機会を得ましたので、少しでもお役に立てればと感じているところです。

この地も昨年の三月十一日に東日本大震災に見舞われましたが、四年前の岩手・宮城内陸地震時の教訓を活かし、様々な対策が取られていたため、建物への被害は軽微だったものの、停電対策、食糧対策、燃料対策に苦渋

を強いられ、その対応が儘ならず、今後の災害対策について深刻に再考を迫られ、「大震災マニュアル」を速やかに策定されたとお聞きし、園全体が一体的に取り組んでいる姿勢が見てとれました。

さらに、燃料・食糧の備蓄、そのための施設等の整備、消防署への届出、汎用的に、効率的に運用するための小型発電機の整備、医薬品優先確保を図るための製薬会社、薬剤師会との協定の締結など、速やかな対応が取られていることを知り、積極的な施設運営を推進していることに感嘆しております。

また、将来計画も施設の立地条件を活かし、医療機関としての機能が十分発揮できるように基幹設備の整った整備を行いながら、地域との共生を図るべく、地域住民の皆様が気軽に訪れることができるような憩いの場の提供等環境整備に努力されている園長を始めとする職員の皆様、自治会長を始めとする入所者の

皆様が一体となつて施設をより良いものとしていこうとする姿勢を見ると、その一助となれるよう、自分でできることから行えればと感じております。

皆様にご協力をいただきながら仕事をさせていただいておりますが、今後ともご協力下さるようお願いいたします。

まだ勤務して一ヶ月を過ぎたところであり、施設のことを十分理解していると言えませんが、これからよりしくお願いいたします。

庶務班長
中 嶋 勝 信

四月一日付けで北海道東北ブロック事務所から異動してきました中嶋と申します。私は生まれも育ちも鳴子で、更に国立鳴子病院で採用されました。鳴子病院には約十年、その後福島病院に二年半、その次は医務局↓厚生局↓ブロック事務所と回り、施設以外の勤務がトータル十二年にもなりました。今回新生園への内示を受けたときは、私が若かりし頃、新生園のグラウンドで野球をしたことを真っ先に思い出し、懐かしい記憶が甦りました。鳴子病院に採用された当時は、宮城県内の国立病院・療養所及び地方医務局がレクリエーションの一環で野球やバレーなどの大会

を開催して、施設間の交流を図っていました。

私も採用されてすぐに野球部に強制的に加入され、大会が行われるまでの間、勤務時間が終了して仕事が終わっていなくても、まず野球の練習を行っていました。ボールが見えなくなるくらい暗くなるまで練習をしてから、

また仕事を行うという毎日でした。しかし、野球を行うことで病院内の他の職場の人と知り合うことができ、時には(?)酒を飲んで交流を深めることができました。鳴子病院は平成十一年に移譲されてしまいましたが、移譲の年に野球部の諸先輩方が「鳴子野球部OB会」を立ち上げ、各地に散らばったメンバーに声をかけ、鳴子温泉に集い、近況報告や当時の思い出話に花を咲かせました。このOB会は今でも続いており、一年に一度は開催し、多くの先輩方が集まる機会となっています。私はOB会の最年少であるため、おじさんになった今でも、諸先輩に使い回されていると

ころです(笑)。

施設勤務はしばらくぶりで不安もあります。が、一日でも早く慣れて、皆様のお役に立てられるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



診療放射線技師長

藤 田 司

今年四月一日より、ここ宮城県の東北新生園にお世話になります藤田です。

私は、これといった趣味がありませんが、本を読む事は好きです。本の種類としては、主にファンタジーの類が好きです。文庫本を中心に読んでいます。荒唐無稽で想像力を全開にして、本の中身に入っていければ、ものすごく面白いですし、幸せを一時でも感じられるのがいいです。家の縁側で、日向ぼっこをしながら、文庫本を寝そべって読みふける事が、何よりも大好きです。

近年といっても、二十年位前から、腰を痛めていて、うつ伏せで寝転がる事が長い時間出来なくなりました。歳をとってきた事にな

りますが、そのせいかも知れませんが、腰を痛め、そして首を寝違えて痛めてしまいました。腰をかばって、肩や首だけで体のひねりをした為ですかね。一通り、体全体を痛みが一巡すると、体をかばう事なく、治ったり回復したりすると信じてきましたが、一巡する時間がこんなに長いと、まったくもって疲れてきます。こういう時には、自分の好きな本の中に入り込んで、スーパーマン並みの身体を手に入れて、本をずっと読んでいる自分を考えると、面白おかしいです。

速読をする事も出来ませんが、好きな本は、それだともったいなくて、たびたび同じ文章を読み返す事で想像力が広がる気がしてやみません。こういう事が好きなので、実生活では、八割方の確率で人の話をふくらませて、ありえない様な事柄まで想像し、それがさも本当の事柄のように話す事があつたりします。そしてこの事で妻からは、人の話は最後まで、きちんと正確に聞いて、有りのままに

話す様に言われます。でも、性格なのかどうか、生まれてこのかたの落ち着きの無さ、おつちよこちよいな性格の為、あまりそのとおриにはいきません。それでよく怒られます。

本当のところを言うと、こんな自分が、こんな自分を好きなのもいいかなあと思っています。

こんなおつちよこちよいで、ポ・ン・カ・ンとしている様な自分なのですが、サイエンス・クエツション、通称SFを読んで感じている事があります。例えば、この銀河系では、太陽系が属する渦状子は辺境の地に有り、比較的若い部類に入ると思います。そうしたら、中央の比較的古い地に有る星々は、どの様な知的生命体を育んできているのかなとか、人類は記録されている(不十分ではありますが)歴史が五千年ぐらい有ると思いますが、他の古い星はどうでしょうとか、逆に地球の過去の恐竜の時代の後と現在の人類の端境期において、ただの無盲時代ではなく、本物の文明があり、そして

そのものが中央の銀河系に移っていったのかなとか、その時の中央の星の文明はどの様な対処がなされたのかとか、考えたらきりがなくらい思い煩います。そういう所では、何が真実に成り得るか、どういう事が正解なのか…

又、この地球人類の一万年後、十万年後、比較的短い時間の中で行く末など、逆に百万年後には人類の痕跡があとかたもない位、人類もいないかもなど…到底解答など得られるはずもないのに、もんもんと考えてみたり、想像したりしているとか始末に負えない様な事を考えてみたりして、一人勝手に青春の残像とか…言われかねないかも…

しかし、人類の将来未来はすばらしいものでなければ…

この宇宙に、この地球に誕生したいみ、誕生するに至ったけいいを考えて、又これからはぐくまれていくだろう、新しい全生命体に対して、かんしゃ、かんげきなど思い煩いたいと思います。

与えるところ

臨床検査技師長 清水益男

一生の間、人は自分の生き方に強い影響を与えるものがいくつかあると思う。多くの人は、書物であったり又偉大な恩師であったり：私の場合、確かに大きな影響を与えたものが二つある。まず犬である！とにかくかわいい！！そして賢い！わが家の三匹目のダックスフンドはかれこれ七歳になるが、これはおばかさんだ。しかし、かわいさにはかわりない。犬たちのおかげで、私の週末は散歩に始まり散歩に終わる：そんな充実した健康的な週末へと変わり、彼らにはそういう意味で私の生き方に多大な影響を与えたものの一つである。

という点である。愛犬にたっぷり愛情を与え幸福を感じ：道行く人にはバラを楽しんでもらって満足感を覚え：そして、この与える精神は我々の携わっている医療にも共通する精神といえるだろう。私利私欲に走りがちな昨今の国家行政の中にあつて、この精神を常に意識しつつ公務に携わる者の一員として、常に「入所者の立場に立った医療」をめざしていきたいと思う。かの有名な聖書の中に『受けるより与えるほうが幸福である』という名言がある。私も残りの人生においてこの精神を意識し、私の人生に多大な影響を与えた犬たちとバラを楽しみとしつつ、幸福で満足な生き方をしていきたいものだと考えるこの頃なのである。

もう一つある。妻がはまっている薔薇である。これは素晴らしい！とにかく美しい！狭いわが家の庭にひしめきあっている六十本あまりのバラの多くは、イングリッシュ・ローズというバラだそうだ。

『バラだそうだ』というのは、実はセレクトしているのは家内で、私はもっぱらバラを植える穴を掘る役目を請け負っている。でもこれだけではない。

「バラをはわせるフェンスがあればいいな」と言う要望に応えるべく、これ又週末には犬の散歩と共にフェンス作りに精を出すのである。こうしてバラも、私の五十六年という人生に多大な影響を及ぼす存在となったのである。

このようにして、私の人生に大きな影響を及ぼした犬たちとバラであるが、全く共通点がないようで実は大きな共通点がある。与えることで私自身が幸福を味あわせてもらえる



東北新生園に赴任して

栄養班長 瀧澤 豊

平成二十四年四月一日付、国立療養所東北新生園にお世話になる事になりました栄養班長の瀧澤豊と申します。未熟者ですが精一杯努力致します所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

実は、十年前に当園には一度お世話になりました。当時の事を思い出すと、五月の端午の節句の嗜好品として配給する鳴子温泉名物「大栗団子」を取り扱っている業者を探すのに一苦労した思い出があります。当時は、インターネットもなく電話帳で隅から隅まで探した記憶が今でも甦ります。

また、十一月に行われる「屋台祭り」は初めて行われる行事で何から手をつけてよいのか大

変困惑した記憶が思い出されます。

あれから十年経った今でも当時の行事が残っていることは大変嬉しく感慨深いものがあります。

さて、自分事ですが、長男が八才、長女が三才の子供達も、当時は、自分二人では何も出来なかったのが、四月から息子は神戸の大学に行き、自分の目標に少しずつですが歩みつつあります。

さて、娘は小さい頃から仲の良い兄と離ればなれになり、寂しい思いをしているようですが、勉強と部活のバドミントンに明け暮れている毎日のようです。

子供たちの成長を横目で見ながら、いつの日か子供たちが巣立って行く日が来るのが待ち遠しいようで、悲しくもあります。

自分も定年まで十年余りとなりましたが、今までの経験を生かし、入所者の皆様の食生活において、安全で安心な食事の提供に努めて参りたいと思いますので、入所者の皆様、園の職員の皆様のご指導ご協力をお願い致したいと思います。

随筆

父と子の会話

今野 きよし

A 子 B 父

A 父ちゃん夕べどこさ行って来たのや？

B 夕べか？寿夫さんの家さ行って来た。

A 毎晩用あんのか？

B そんなに無い。

A ほんだなら偶に家に居たらええのに。

B そうだな、いつもそう思うんだ。

A 思うんだったら実行すれば良いのに。

B そうだな、言われるとおりだな。

A 父ちゃんどうして夜出るのかと思う。

B そう思うか。思うべな。

A おらはいつも思ってる。

B それではこれからはあまり行かないようにするか。

A 父ちゃん大人だもの当たり前だと思う。

B お前、良いこと言うな。

A 母ちゃんいつもやかましいからな。

B そうか、その事気づいていたのか。

A おら、ちゃんと前から気づいていた。

B そうか、お前、父ちゃんの事分かっていたのか。

A 父ちゃん、何か良い考えあるの。

B 夜遊びに行かないで、何かするかな。

A 父ちゃんだもの、何か思いつくべな。

B それで今度雨降ったら、魚取りに行くか。

A それはええな。どんなことやんの？

B 雨降ったら、田圃の側の堀にどじょう掬

いに行くか？

A そいつは面白いな。すぐに行きたい。

B 雨降らないと取れないんだ。

A 雨降るのをじっと待つか。

B そうだ、待つのは大変だと。

A どうして待つのか？おら聞いたらすぐ行き
たくなる。
B お前はまだ子供だな。せつがちで。
A 父ちゃんもそうだったのか？
B 父ちゃんだって、生まれてすぐに大人に
なった訳でね。
A そうか、色々な事あって段々大人になる
んだね。
B すぐになんでも分かったら怪物だべ。
A 何でも分かる怪物か。
B そうだ、何でも分かったらあたりの人困
るべ。
A そうか少し分かってきた。
B 世の中には順序があるべさ。
A 順序か、おらずぐなんでも思うようにな
ると思うもの。
B あれ、話横道にそれたな。
A そうだね、おじいちゃんも話長くてな。
B おらもそう思う。話長くてさ。
A ほで、父ちゃんも話の長いじいちゃんに

B 困っているのか？やかましい母ちゃんと。
話横道さそれで悪かったな。
B たまにはこういう話も面白いね。
A ほだか？お前も大したもんだな。そこま
で分かっていけば、何も心配ないな。
A 父ちゃん、どうしよう掬いの話どうなった
の？
B どうしよう掬いか。楽しみに待っている。
A 早く雨降らないかな。雨乞いするか。
B 今年みたいに雨降ったら恨まれると。
A それでは、こっそりやるかな。
B 父ちゃんもそうする。誰にも分かれな
いように。
A こう言うのを『秘密会議』って言うのか？
B 大人の世界にもある何々会議でな。
A 秘密会議ってあんまり良くないの。
B そうだよ、良くない事。止めることにす
るか？かぶと虫取りも面白いと。
A かぶと虫って山に居るのか？行ってみた
いな。

B 今度連れて行くから。父ちゃん子供の時、
山に行つて取つて来たんだと。
A 父ちゃん子供の時、山にばかり行つて
いたのか？
B そうだ、父ちゃん子供の時山に行つてか
ぶと虫取ったり、秋になると栗拾いあけ
び取りしていた。
A おら、山に行かないで机に向かつて勉強
していたと思った。
B 勉強なんかしない。なまけものだもの。
A それでもこれだけのもの分かるのか？
B 勉強しなくとも、世の中の人が教えてく
れた。
A それでは父ちゃん、社会科の勉強したの
か。
B 社会科の勉強したんだと。汗水流して働
いて、いろいろ習った。
A 社会科の勉強って面白いようだね。
B 机に向かうと難しくなるものな。
A 父ちゃん、社会科の勉強したんだ。

B 社会科の勉強とそれから山学校もあるん
だ。
A その山学校って何教えるの？
B 山学校は行かない方ええと。
A どうして？その話聞きたいな。
B どうしても聞きたいか。
A 山学校行かないって約束したら教える。
B うん、約束する。教えて早く聞きたい。
A 山学校ってな、今日学校行きたくない
と思う事ある、その時「いつてきます」つ
て出て、途中の原っぱとか山で遊んで、
皆が帰る頃に「ただいま」って戻つてく
るんだ。それが山学校。
A そうか、それなら聞いたことある。
B 一回やると止められなくなるから、それ
は絶対にやらないようにな。
A はい、その事約束する。
B それではな今度はどうしよう掬いとかぶと
虫取り、栗拾い、あけび取りと楽しみに
待っていてな。

詩

佐々木 洋 一選

◇ 入 選 ◇

《朝》 今 野 きよし

風邪癒えて
七日がすぎた
体調少しずつ
それまでもまあだ
すっきりしない
今年の風邪は

長引くと
云われていたが
元の体に戻らない
私には以前から
風邪には弱い
ところある
丈夫な人でも
年毎に
弱るとい
ましてや
弱い私には
当前すぎて
お釣りが来る
地面には

霜の柱が
えがえがと
ふるい起つような
気持ちになった

この腕に
想像つかぬ
力湧き
臆病風邪を
吹きとばす

【選評】

「朝」

詩を書く事は、弱くなった自分のこころを励ますことでもあります。
「朝」「退院の朝」には、詩を書くものの生きる力を感じました。「朝」の終連はとても力強く、共感を覚えます。

短 歌

長 田 雅 道 選

◇ 入 選 ◇

五体満足の日のはるかなり歩むにも立つにも人の手欲しいと思う
佐 藤 つや子

【選評】

長い人生をふりかえると健やかだった日もあるかとなった。今では、歩くことはむろん立つことにも人の手が欲しいと思う老の日々を送る作者。一日一日を生き抜く尊さが読者の心を強く打つであろう。

◇ 佳 作 ◇

佐藤 つや子

三角の袋に入れし甘納豆膳に添えあり
今日は節分
三人が餓死せしとふ報道になぜなぜな
ぜと問いかけている
車椅子に乗りたるままにて別れ来ぬ戦
時ともに生きさし友逝く
カタカナ語のあまりに多き放送につい
てゆけずにスイッチを切る
歌集よみていただくこともなくなりて
締め切り歌人と我をいやしむ

俳 句

山田 桃晃 選

◇ 入 選 ◇

車椅子速度がゆるむ花の下 園 永 泊

【選 評】

いつもの道をゆったり散策しながらの車椅子。見れば見るほど桜の色がたまたまこぼれる花片に車の動きが遅くなる。自然の恵みに生きる喜びを授かり、いつまでも去りがたい花の下。

斎藤 照雄

梅におう今日はあなたの結婚日

【選 評】

今日は記念の日。振り返ってみれば、梅の甘ったるい匂いが懐かしい。さて、喜寿か傘寿してまた米寿を迎えられたのでしょうか。「あなたと」でなく「あなたの」に喜びが二重にも三重にも幸せを感じられる。祝。

小野寺 静男

三月の別れのひとつ定年です

【選 評】

仲春に当たる月、寒い日があるにせよ、日一日と暖かく春らしくなつて来るのだが、今年は寒い日が続いている。人にはそれぞれの常事あり、その一つに定年という

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし

笑い声山にこだまし植樹祭
定年の看護師さんの植樹祭
鋤握り園長先生植樹祭
震災の復興記念植樹祭
スコップにリボンを結び植樹祭

千代田 秀夫

大震災瓦礫の中の古暦
車椅子きしめる音や寒に入る
老いたれば大寒の風身に痛し
まだ来ない孫を待つ間の冬日和
豪雪の中に老婆の奮闘記

小野寺 静 男

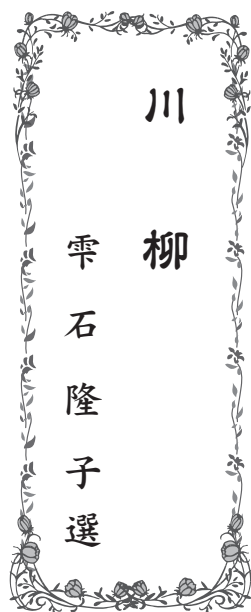
豪雪や畳んだままの車椅子
軒先の氷柱折りたる音かな
仮設にも慰問はいかが雪女
吾去りし後に咲きたる桜かな

斎 藤 照 雄

踏まれ来てほほえむ麦の秋となり
梅におう今日はいいことありそう
梅におう君と僕とのランデブー
御母堂の御霊へせめてカーネーション

園 永 泊

大根に笑いをたしてうられけり
人參が負けず劣らず赤く売れ
あっさりと売られ大根細かった



◇ 入 選 ◇

桃 生 小 富 士

栗駒山に残る駒形春動く

【選 評】

冠雪の山容から春の景色に変わる栗駒山。駒形の山容は、ふもとの町の春耕の合図である。下五の「春動く」に、季節感と農作業の始まりの喜びが溢れて清々とした一句が成った。

斎 藤 照 雄

時過ぎて残るは俺の悔いばかり

【選 評】

来し方を振り返り、深い自省の作品。句の要点は下五にある、と言われている通り、「悔いばかり」に思いは集約されている。切ないような作品だが、作者の正直な感慨であろう。

桜 山 南 仙

何もかもお陀仏という時代です

【選 評】

大震災以降の大多数の思いであろう。大津波ばかりか、原発事故の目に見えぬ放射線によって生き物は脅かされている。中七の「お陀仏」は物事が駄目になるの意だが、まさに何もかも先の見通せない時代である。簡潔にして時代を

言い得た秀句である。

◇ 佳 作 ◇

桃 生 小 富 士

飲酒運転するなと花も問いかける
安全がメルトダウンで世が狂い
べガルタの連勝スタンド春溢れ

桜 山 南 仙

さびしやなペンの先から見た涙
春の声ばらまきに來たつばめです
思ひ出を語れば笑う山笑う

千 代 田 秀 夫

鯛焼きの目に涙あり大津波
七草を袋で買って今朝の粥
老い二人テレビと共に「頑張るぞ」
タレントの撒く幸せ豆拾う

小野寺 静男
津波より大きい絆で復興だ
定年が見せてくれたり走馬灯
アラ還の春の明日へ歩きだす

斎藤 照雄
起き上がりこぼしのようにになりたいな
うたたねを許す春の陽ポッカポカ
過ぎ去った昔捨てたり拾ったり

今野 きよし
このまんま逝くかと思う咳をする
耳に口寄せて説明ありがたい
野も山も眺めるだけでありがたい
寝て待つて起きてても待つて深夜便

随筆

母と息子の会話

今野 きよし

A 息子 B 母

A 母ちゃん地震の時なして竹やぶに逃げ
ろって云うのや。
B ああ、あの事か。
A うん、地震の時の話なしてなのや。
B ああ、あの事か誰に聞いた。
A みんな云ってるもの。
B その話か、ほだなあ。
A なにかそんなめんどうな事あるの。
B 早く聞かせてしまおうとお前うんと云った
だけでどこさか行ってしまうべ。
A おらほな事しない。

B そうかお前そんなにいつから素直になっ
たのや。
A いつからたつてよく覚えていない。
B ほだべなお前いつも話半分しか聞いてい
ないどこあるなあ。
A おれそんなにそそかしいのかな。
B ほだ逃げ足早いからな。
A ほだておら運動会でいつもびりから三番
目だもの。
B なんだそんなに遅いのか。
A おらかけっこ早くないもの。
B 母ちゃんは早かったど。
A 母ちゃんは何番目だったの。
B 前から二番か三番目だった。
A やっぱり母ちゃんだなあ。
B それはそうさ母ちゃんだもの。
A おら母ちゃんは世の中で一番えらいと
思っているもの。
B 誰よりか。



桜植樹祭
平成24年3月29日

A おじいちゃん、おばあちゃん、父ちゃん
 よりもえらいと思ってる。
 B そんなにえらいと思うのか。
 A そうさ誰よりもだ。
 B 誰よりもか。
 A ところで母ちゃんも逃げ足早かったのか。
 B ほだつてこの間おばさんの家さ行って夕方まで帰らなかった話したもの。
 A 母ちゃんなして逃げ足早いてや。何か聞かせたけが。
 B おら聞いたおばさんも居るし、いとも居るし楽しかったつて云っていた。
 A ほだたかな、あまりいっぱいあるからな。
 B 母ちゃんつてそんなに物忘れするの。
 A そうだ、都合の悪いときは特にな。
 B 母ちゃんつて都合良くできているんだな。
 B そうだ母ちゃんつてそうでないと務まら

A ないもの。
 A 今で云うところのリラックスしているんだ。
 B そうでないで疲れてしまうから。
 A そうか母ちゃん流の生活の知恵つて云うの。
 B お前なかなかうまいこと云うな。
 A おれだつて一つくらいあるもの。
 B これからの世の中そうでないとな。
 A 母ちゃん今度魚釣りに行くかな。
 B ああ、やめた方ええ。
 A なしてだめなの。
 B まだお前に釣られる魚生まれていない。
 A どこでわかるの。
 B ほだな、この間川のそば通ったときな。
 A 誰に聞いたの。
 B あの時川の魚に聞いた。
 A 川の魚、母ちゃんと話したのか。
 B 話はしないけれどもちゃんとわかった。

A へい、母ちゃんつて川の魚の事もわかるの。
 B そうだこうすればこうなるとわかる。
 A 母ちゃんつてなんでも都合の良いようにわかるんだ。
 B お前のためになることはちゃんとわかる。
 A それから何かわかるの。
 B この間、学校の遠足の話していたな。あれ行かない方ええ。
 A どうして行かない方ええの。
 B 遠足はなあ足疲れるだけなんだ、何もええ事ない。
 A ほだつていろいろ見られるもの。
 B いろいろ見たつて云つたて眼に変わりないべ。
 A これから役に立つと思うけれども。
 B 困った時、眼（まなこ）質に入れられるわけもあるまいし。

A 質に入れるつて何の事。
 B 母ちゃんの時代には質屋つてあつて、品物持つて行くとなにがしかの金貸してくれたの。
 A うん、初めて聞いた。はあ、そうなの。
 B 遠足やめた方ええ、魚釣りもな。
 A 母ちゃん地震の時の竹やぶの話なじよなつたの。
 B あの話か、後でゆっくり聞かせつから。
 A はーい、ほで後で聞く。
 B ああ疲れた、お前と話すると疲れる。
 A おれの話何かくどいか。
 B ほでないけれどもとにかく疲れる。
 A どうもありがとう。
 B 母ちゃんもありがとう。

東日本大震災発生後の医薬品供給と

今後の対応について

薬剤師 太田 貴 洋

園長先生からのご依頼を受け、この度在職最後の「新生」を書かせて頂くことになりました。

「新生」第六十四号で東日本大震災後の当園の行動と今後の対策について園長先生が執筆されておりましたので、私は当時の医薬品供給について述べさせて頂きます。

【はじめに】

平成二十三年三月十一日(金)午後2時46分、宮城県登米市は震度6強を観測した。当時、

重油、ガソリン供給の支援を要請したが、当園は救急患者を受け入れていないとの理由で優先順位が低く支援を受けられず、「国立療養所」の存在意義を問われた。

今回、震災発生後の医薬品供給や日常診療体制において、震災の影響を最小限にするための取り組みを報告する。

【医薬品調達】

震災発生二日後、初めて医薬品卸業者が一社来園した。道路状況が悪いこと、ガソリン給油の制限で、当面は平時時のように当園には来られないと伝えられた。また、薬剤科には燃料の節約から送電されなくなったので、冷所保存医薬品が使用不能となった。医薬品卸業者の冷蔵庫も停電の被害を受けたので、新規に購入することはできず、近隣の栗原中央病院に直接伺い、その場で交渉し援助して頂いた。

医師は園長先生、内科医師の計二名だったが、その日の当直時間帯から交通機関が回復するまでの医師は園長先生のみとなり、各診療科を診なければならなかったため、診療を休日体制へと移行した。震災発生後、当園では停電となり、自家発電装置が稼動した。当園所有の自家発電装置はガスタービン式で広範囲への送電対応となっており、燃料となる軽油の消費が激しく、医療従事者や事務職員で3時間毎のローテーションで軽油の補充を行った。また、宮城県や登米市に対し、軽油・A

年度末で薬剤科の医薬品在庫が充実していない中、まずは、各医薬品の在庫状況の確認、特に病棟・不自由者棟・一般寮での洗眼用生理食塩液、一ヶ月分の必要数を調査して把握した。また、医薬品を優先的に供給するようにと行政機関から通達があったが、食品扱いの経腸栄養剤の供給が滞っていること、医療用麻薬が都市部へ流れていること等の情報を契約医薬品業者から得たので、災害対策本部に報告し、食品の経腸栄養剤の代わりに医薬品のエンシユアリキッドの大量確保、麻薬、消毒薬を優先的に発注するようにとの指示を受けることができたので、来園した医薬品卸業者全てに契約の有無を問わず発注を行った。また、臨時処方は十四日分から七分分への変更を行い、医薬品の払い出しを抑制した。

軽油の補充等、連日の泊まり込みで職員の疲労がピークに達した中、三月十五日午後10時22分に停電が回復した。医薬品卸業者から

伺った近隣の県の医薬品供給状況、連日の震災報道等から早急に医薬品を発注しないと市場在庫分が枯渇すると予想したので、停電回復翌日、一ヶ月分の医薬品の発注を行ったところ、運良く発注した全ての医薬品が納入された。また、その後に国立病院機構医療班での医薬品供給を行っているとの情報を得たが、既に医薬品確保後のことだった。結果的に、後に製薬会社で出荷制限がかかった医薬品（エンシユアリキッド・チラーヂン等）でも市場在庫分から確保できた。園長先生には定期処方の方前倒し入力に協力して頂き、即調剤を行い、不足分の医薬品を随時発注した。よって震災発生後一週間経過した時点で四分定期処方分の医薬品、在庫として一ヶ月分の医薬品は確保できた。一定の医薬品供給の目途がたった三月二十八日から処方せんの日数制限を解除した。今回は、園内での方向性を各診療科で共有できたことや、日頃医局・

看護課・事務と親密なコミュニケーションをとっていたこと、初期対応が早かったこと、そして何より当時入職一年目の私の意見を、園長先生をはじめ総看護師長、事務長が聞き入れてくれたことがこの難局を乗り越えられたことだと感謝しています。また、今回、医薬品卸業者の方には契約外の医薬品でも快く納入していただいたことにより当園の医薬品供給は途絶えなかった。

【今後の有事に備えて】

①電力確保

冒頭にも記述した通り、自家発電装置があるにも関わらず燃料を節約するため、施設内で計画停電を行った。薬剤科は停電区域になり、冷所保存医薬品は全て使用不能となった経験から、園で薬剤科専用の小型自家発電機と非常用電源を設置していただいた。また、停電時の薬剤の損失を最小限にするため、変

更できる冷所保存医薬品は室温保存医薬品へと変えた。

②外部機関との連絡手段の確保

震災発生後、仙台から60km、古川から20km離れている当園には、ガソリン不足により医薬品卸業者の来園はほぼ皆無だった。固定電話だけではなく携帯電話もほぼ使用不能だったが、幸いにも私個人の携帯電話がドコモで、震災一日後は通話不能だったが、何十回とかけると一回は繋がったので、医薬品卸業者の方と個人携帯でやりとりして来園時以外にも発注できた。外部機関との安定した連絡手段の確保として、平成二十三年五月に園で衛星電話を購入した。その衛星電話の番号を契約医薬品卸業者へ文書で通達し、非常時に医薬品卸業者が来園制限されても電話連絡が出来る体制にした。

③非常時医薬品発注リストの作成

当園の採用医薬品数は、平成二十四年一月末時点で総数474品目と外部の医療機関と比較し、少ない数である。当園採用薬リストに基づき、各医薬品卸業者へ現時点での在庫の調査依頼を行い、その調査結果を表に付け加える形で非常時の全医薬品発注リストを作成した。このリストは商品名、その一般名、規格、包装単位、既存契約卸業者、該当医薬品に対する既存契約の有無を問わず、全医薬品の在庫状況を一覧表にした。特徴としては、商品名の他に一般名を併記したことにより、その一般名における代替薬の検索を容易にした。各医薬品卸業者に採用医薬品が無く、代替薬がある場合、先発品、後発品のどちらであるか各医薬品卸業者へ調査時点での在庫状況を問い合わせ、代替薬が本社あるいは、近隣の営業所から取り寄せ可能かどうか確認した。これにより、医薬品卸業者に在庫がある

と考えられる採用医薬品、代替薬の把握ができ、非常時だけではなく、平常時の土日の福祉担当の方にも使用できるようにした。

④外部機関との医薬品供給の連携

国立療養所薬剤科長協議会において、国立ハンセン病療養所における有事の医薬品供給については、国立病院機構が作成中の指針に従うこととの通達があった。しかし、現在具体的な支援内容・指針については全く見通しが立っていない。厚生労働省・国立病院機構・地方自治体へ国立療養所への支援体制を強力にするよう要望しつつ、まず施設レベルで出来ることとしては、契約医薬品卸業者、近隣の薬剤師会との連携が重要である。宮城県薬剤師会から当園薬剤科へ安否確認をされたのは震災発生一ヶ月後のことだった。今回の教訓として、近隣の薬剤師会・登米市薬剤師会との連携を疎かにしていたのは反省点

そして今回の当園で生じた事実が風化しないよう強く望む。

平成二十四年四月一日付けで国立療養所多磨全生園薬剤科へ異動となりました。

この場をお借り致しまして、新卒として入職してから現在に至るまで、園長先生はじめ久保会長、入所者の方々には、経験のない若造の無礼な言動等を優しく受け止めていただき感謝申し上げます。



だった。登米市の隣の栗原市は、平成二十年六月十四日発生の岩手・宮城内陸地震と本震災と二度の被害を受けており、平成二十三年十月に栗原市薬剤師会と医薬品供給と薬剤師の人的供給について協定を締結している。詳細は今回記述できないが、当園も何らかの形で仲間に入れて頂くよう交渉している段階である。契約医薬品卸業者との連携については、震災時に契約外で医薬品を購入できたので、その経験を生かし、当園へ医薬品供給を配慮するとの取り決めを締結しようと現在交渉中である。

本震災の教訓として、東北地方だけではなく、他の地域で今回のような災害の発生時には救急患者を受け入れられない施設は当然のことではあるが、優先順位が低くなり、医薬品供給等の援助は受けられ難いものであった。その経験から早急な地域の外部組織との連携の確立が急務であると考ええる。



ー震災直後の薬剤科のようすー

お世話になりました

元看護助手 小野寺 静 男

新生誌最後の原稿となりました。色々な事があり、長くなりましたので、適当に割愛してお読み頂ければ幸いです。

元気な入居者が、不自由者の面倒を見てきたものの、高齢化で作業変換として職員に切り替えられてきました。当時は、二人の募集に一人いれば良い方と聞いていましたが、私の時は、七人の募集に二倍以上の面接者が来て、随分緊張したものでした。

どうにか採用となり、盲人会館勤務となりました。この時、全国十三園の盲人会本部を引き受けて、本部と盲人会が別々の部屋で仕

事をしていました。

そんな訳で、磐井さん、泰広さん、登さんの奥さんの光子さん、友子さんと五人で二手に分かれての仕事でした。かけだしの若僧を懲りずに面倒を見て下さって、感謝しています。

その頃の私のことについては、盲人会機関誌「奥の灯」に載せて頂きましたので省略したいと思います。

盲人会では、「お寺の門前の小僧、経を唱う」の如く、俳句、川柳、尺八、三味線を教わりました。尺八は、途中で師匠が亡くなり、音が出たところで終わってしまいました。

毎週、倶楽部が練習していた民謡の発表会を、旧新生会館で行った時は、出演依頼・プログラムから、司会・録音まで一人でこなしただために余裕がなく、後で立見客もたくさんいたよと言われた時は、長時間の立席に申し訳なく、出演の近隣のおばあさん方、職員の皆さんに万感の感謝でした。喜好さんとは、

亡くなるまで「もう一度やりたいね」が合言葉のようでした。

この頃、アマチュア無線の流行で、入居者に声がけした中で、免許を持っていた三原さんを誘って開局し、地元クラブに入会し、無線交信はもとより、いろいろな行事に参加しました。園内の西側のシンボルの20mのクランクアップタワーを目印に、たくさんのお仲間が集まりました。よその園には、マスコミでも有名な入居者が、多々おられると思いますが、居室への面会の述べ人数は、全国トップクラスではないかと思えます。早逝された時はショックが大きく、文化部の山野辺さんに、新生誌に追悼文を載せさせて戴きました。

カラオケがはやり始めた頃、文化部の亀岡さんに、「どこかに集まって歌えるといいですね」と声を掛けると、「福祉会館がいいよ」と教わり、早速、何人かでカラオケ会をやり

ました。備品がホームステレオなので、音量はまずまずとしても、マイクとミキシングが上手くいかなかったような気がします。

まもなく愛好会が出来て、現在、唯一の旧寮と思われる新月寮前に、やぐらを組んでのカラオケ大会から、会場が新生会館へと変わりました。そして、「カラオケみちのく会」になり、毎年、春秋のカラオケ発表会は、園内の一大行事となり、会員の華舞台となりました。

友園との交流会も盛んになり、近隣の瀬峰や新田のクラブとも交流がありました。

グラウンドでは、ソフトボール大会や運動会がありました。

ソフトボール大会では、打てば三振、ゴロはトンネル、フライは足がもつれてひっくり返り、総師長さんに笑われる等、体育の通信簿が「1」だった証拠を披露することになりました。なんとかしたいと、三十歳の誕生日

前夜から、マラソンを始め、百メートル一分から分相応と心得て、少しずつ距離を伸ばし、フルまでたどり着きました。

園内では、はじめ年配の職員が松島マラソンに参加したという話が聞かれる程度でした。

ブームになると、久保会長、女医先生、栄養士、調理師、その他メンバーがどんどん増えていきました。大会参加も、県内はもちろん、県外へと広がりました。この勢いに乗って、「新生園ランナーズ」の結成となり、ネーム入りのユニホームを作りました。運動会のマラソンでご覧いただけだと思います。「皆と走って楽しい」の一言に尽きます。ユニホームは宝物です。

TVもマラソンブームに乗り、芸能人が参加した大会を放送するようになりました。そのうちに郷ひろみの有名な海外の大会が放送になり、私のフルデビューはここにしようと

翌年エントリーしました。結果は、なんとか郷ひろみを上回るタイムでゴールすることが出来ました。ただ、ここが海外？と思う程、日本人ばかりでした。

郷ひろみは、この後、リーと結婚しますが、二谷英明がインタビューで婿殿の事を話していました。

ゴールの公園には、日本人ツアーのテントが所狭しと並んでいて、二ヶ所に人だかりが出来ていました。片方は、「とんねるず」で、表情から察すると、リタイヤしたかなと思うようでした。もう一方は、「間寛平」で、筋骨たくましく、タイムもサブスリーまでもう少しだったと思います。その後、ウルトラマン等で有名になりました。

調子に乗った私は、現在、米軍基地移転で話題の島の大会に「エノさんのおはようさん」ツアーで参加しました。途中でスコールが来てコースが川のようになり、雨宿りをして、

再スタートしたものの、靴が水浸してビチャビチャ走り、タイム度外視のゴールでした。

不完全燃焼でしたので、今度は、天国に一番近い島を越え、ゴーギャンの島の大会に参加しました。日本人七人のツアーで、野本仁初参加と言われ、まさしく、滞在中に見たのは、日本人らしき人でした。

飛行機を降りた時から、添乗員無し、日本語は一切通じないと言うので、全員一致団結しました。交渉は、海外ベテランの老夫婦のおじいさんをお願いしました。部屋の相棒も話せるようで、町へ見物に行こうと誘われバスで出かけたものの、町の中ではぐれてしまい、マラソンをマラトンと発音すると聞いたくらいで、頭が真っ白になりました。もし、鏡があれば、髪の毛が逆立っていたのではないでしようか。マラトンの単語を話した記憶があるだけで、どうして帰ったか記憶がありませんが、からくも宿泊地へ戻る事が出来ま

した。もしかすると、現地と日本のTVで、日本人行方不明の臨時ニュースが出たかもしれません。

暫くしてドクターストップになりましたが、この頃の私が花道だったように思います。仕事の方は、盲人会からプレハブ係に変わりました。入居者の今村さんの介護や、伝言を伝える為に、園長室、事務長室、総師長室へ何度も往復しました。

今村さんの御指導はずいぶんありました。板敷きに座ってお話を聞くのですが、三十分前後や一時間前後、最長は、十五時半頃から十八時頃だったと思います。私の未熟さに堪えかねたのか、松葉杖を振り上げた時もありました。

それでも三年過ぎた頃には、「勝手にしろ」の一言でした。治療棟では「小野寺がいるから」と話していたそうなので、係りのほでなすに諦めたのでしよう。

御指導というと、官舎を借りていた頃、休日に、前に声掛けしていたメンバーと看護学院寮生と、本館前でバレーボールの試合を行いました。後日、教務主任に呼ばれて、御指導を受けました。また、官舎地区に、町の印刷物を配布中、小野事務長官舎で、「君か、一寸入りなさい」と呼び入れられ、小一時間、御指導を受けました。何についてだったか記憶に無く、申し訳なく思っていますが、まったく恥ずかしい限りです。

この官舎時代は、食堂を利用させてもらいましたが、当時の健康源は、調理のお姉さま方のお陰と感謝しています。

プレハブ係と兼任で、庶務係や補給係もやりました。算盤で計算の度に答えが違うので、算盤塾へ通いました。小学生に「おっちゃんもやるの」「よろしくね」の挨拶で始まり、七級から三級まで、毎月一回の進級試験で約

半年通いました。当たり前ですが、この頃には、計算おまかせになりました。

プレハブの今村さんが亡くなって、不自由者棟勤務となりました。入居者や職員の関わる人数が圧倒的多数のため、私のような単細胞は、慣れるまで大分かかりました。最後まで、す・つ・と・こ・ど・つ・こいの迷惑のかけつばなしで、申し訳ありませんでした。

メディアの時代と言われる昨今、園内TV放送が⑩チャンネルに施設されました。私的には、これを設計された方には、小さい表彰状位はあっても良いのではないかと思う程の設備とっています。ハードが出来ましたので、ソフトの充実がはかられて、ビデオ放送や、各会館、グラウンド、各センターのライブ中継、園長先生の挨拶や各部署の案内等、歩ける方もベッドの方も、同じように情報が見られるように進むといいなと思います。

さんの応募を願ってやみません。

最後に、皆様の御健康をお祈りします。お世話になりました。有難う御座いました。

園内で関わらない部門がないほど、広範囲な業務に携わったという事は、それだけ広範囲に迷惑を掛けたという事になり、穴があったら入りたい所ですが、退職になり反省の日々です。

その他、菊花展、盆栽展、野菜品評会、文化祭等、新生園黄金期と呼べるような時がありました。この時期に勤務出来た事は、忘れられない思い出になりました。

また、皆さんにはいろいろな事を教わり、つくづく新生園に勤めて良かったと思うこの頃です。

高齢化がすすみ会員が大勢だった戸伊摩短歌会・俳句会・川柳会・詩・随筆の文芸協会がなくなり、新生誌の文芸欄も小さくなって寂しくなりました。是非、入居者、職員の皆





◆転勤・退職者離任式（さくらホール）◆
平成24年3月30日



◆観桜会パークゴルフ大会◆
平成24年4月25日